

# 先進事例

全国中央会では、中小企業や中小企業組合関係者が、新たな共同事業の実施や組織体制の見直し等を行う際の参考になるよう、都道府県中央会と連携し、毎年テーマを決めて共同事業等に先進的に取り組んでいる組合事例を収集しています。昭和57年度より事業がスタートし、これまでに収録した組合事例は6,000組合を超えています。

毎年、詳細な調査・分析を行い、これをもとに組合事例のエッセンスを取りまとめ、報告書（先進組合事例抄録）及びホームページで公開しています。

## 【組合事業による新たな展開】

### 小野川源泉協同組合

#### — 温泉熱利用バイナリー発電による新たなイメージ作り —

住 所	(〒992-0076) 米沢市小野川町2501-1		
電 話 番 号	0238-32-2740	U R L	<a href="http://www.chuokai-yamagata.or.jp/onogawa/">http://www.chuokai-yamagata.or.jp/onogawa/</a>
設 立	昭和41年2月	F A X 番 号	0238-32-2745
組 織 形 態	同業種同志型組合	出 資 金	15,329千円
主 な 業 種	旅館業、小売業	地 区	米沢市小野川町一円
組合専従者	1人	組 合 員	23人

#### ■背景・目的

温泉熱エネルギーの高度化をはかるために、平成27年から実施した小野川温泉源泉組合、アネスト岩田株式会社、山形大学との共同研究にて、中低温熱源を利用した発電技術開発プロジェクトが始動し、同年11月から小野川温泉の源泉を用いて実証試験を開始した。当該プロジェクトでは小型分散式の発電システムを安定動作することを目的として、県内初の温泉熱発電を行うものである。

#### ■取組みの手法と内容

当組合と山形大学、発電機器メーカーが共同でプロジェクトを開始。小野川温泉の源泉をくみ上げている配湯機械室内に小型バイナリー発電装置を設置、配管をバイパスさせて発電機に給湯し発電を行って、電力は配湯用ポンプの電力に利用予定である。当初は組合員への技術内容の説明が難しかったが、発電分野に詳しい理事長を中心に、専門家の話やデータを活用してわかりやすく説明を行い、役員の理解を得ることができた。

#### ■成果とその要因

想定した発電を達成できるよう設備開発を実施し、年明けから試験運転を開始予定であり、今後は安定した電力供給、配湯2次利用による野菜栽培などに発展することが期待されている。小野川温泉の話題性が高まり、県内外からの視察客の増加、組合活動に取り組む意識向上や来街客増加による売上増加も期待されている。



バイナリー発電機



新共同浴場「湯湯」